

課題の概要

- 提案課題名 「肝吸虫感染による胆道癌の制御を目指す研究」
○研究代表者名 「村上 善則」
○代表機関名 「東京大学」
(実施予定期間：平成22年度～平成24年度)

1. 研究の内容

タイ国東北部では胆道癌の発生頻度が世界で最も高く、保健医療上重要な問題である。過去の疫学研究により肝吸虫感染・炎症との密接な関連が示され、吸虫感染者の胆道癌の予防、早期診断法の確立が急務、かつ可能な新局面に入った。胆道癌の制御はタイ国立研究機構の重要な研究方針の1つとなっている。

タイでは胆道癌が肝吸虫感染者の一部に発生するのに対し、日本では肝吸虫と無関係な胆道癌の頻度が高い。本研究は両国の胆道癌を比較することで肝吸虫感染と胆道癌の関連を明らかにすることを目指す。疫学的、臨床的、分子遺伝学的比較、特に癌関連遺伝子やゲノムコピー数多型や血清タンパク質の網羅的解析を行い両者の分子的特性を明らかにする。そして、それを予防法の確立、診断マーカーの同定へとつなげる。

タイ国立研究機構は胆道癌の制御を重要な研究方針の1つとして取り上げている。この国際共同研究を通じて、胆道癌制御の新局面を拓く若い世代との共同研究基盤を構築してゆくことは、炎症による発癌という近年注目を集めている課題の解決を通して両国の癌対策全般にも貢献できると期待される。

2. 研究体制

東京大学医科学研究所が分子腫瘍学的解析及び臨床解析、愛知がんセンターが疫学、長浜バイオ大学が分子生物学的解析、東京女子医科大学が臨床的解析を行う共同研究チームの体制をとる。このチームとタイ国東部コーンケン大学医学部を中心とする研究チームとが国際共同研究を行う。

3. ネットワーク構築の実現可能性

研究代表者はタイ国の胆道癌研究集会を通じて、胆道癌の予防、診断の新局面についてコーンケン大学研究者と交流を深めてきた。また、タイ側と胆道癌に関する共同研究を20年以上にわたり展開し、肝吸虫の疫学要因同定に貢献して深い信頼関係を築いてきている研究者の参画も得ている。これらから、良好なネットワークが構築されることが確信され、コーンケン大学研究者と速やかに協定締結を行い、さらにタイから日本への若手研究者の派遣を双方が支援して実現する予定となっている。

これら、研究協力体制に基づく若手を含む研究者間の信頼関係の構築は、このような両国政府による癌研究協力、交流の制度化を進めることになるとと思われる。

実施体制 (東京大学、東京女子医科大学、長浜バイオ大学、愛知県がんセンター)

役割分担

研究代表機関

- ・東京大学(代表者:村上善則、分担者:浅岡良成、櫻井美佳)
活動内容:胆道癌のゲノム・遺伝子解析と炎症マーカーに関する研究
(研究交流担当: Robert F. Whittier)
活動内容:国際交流の支援、促進

研究分担機関

- ・東京女子医科大学 (代表者:山本雅一、分担者:川本徹)
活動内容:日本の胆道癌試料の収集と臨床的研究
- ・長浜バイオ大学(代表者:三輪正直)
活動内容:胆道癌患者の血清マーカーに関する研究
- ・愛知県がんセンター(代表者:田中 英夫)
活動内容:胆道癌発生の疫学的研究

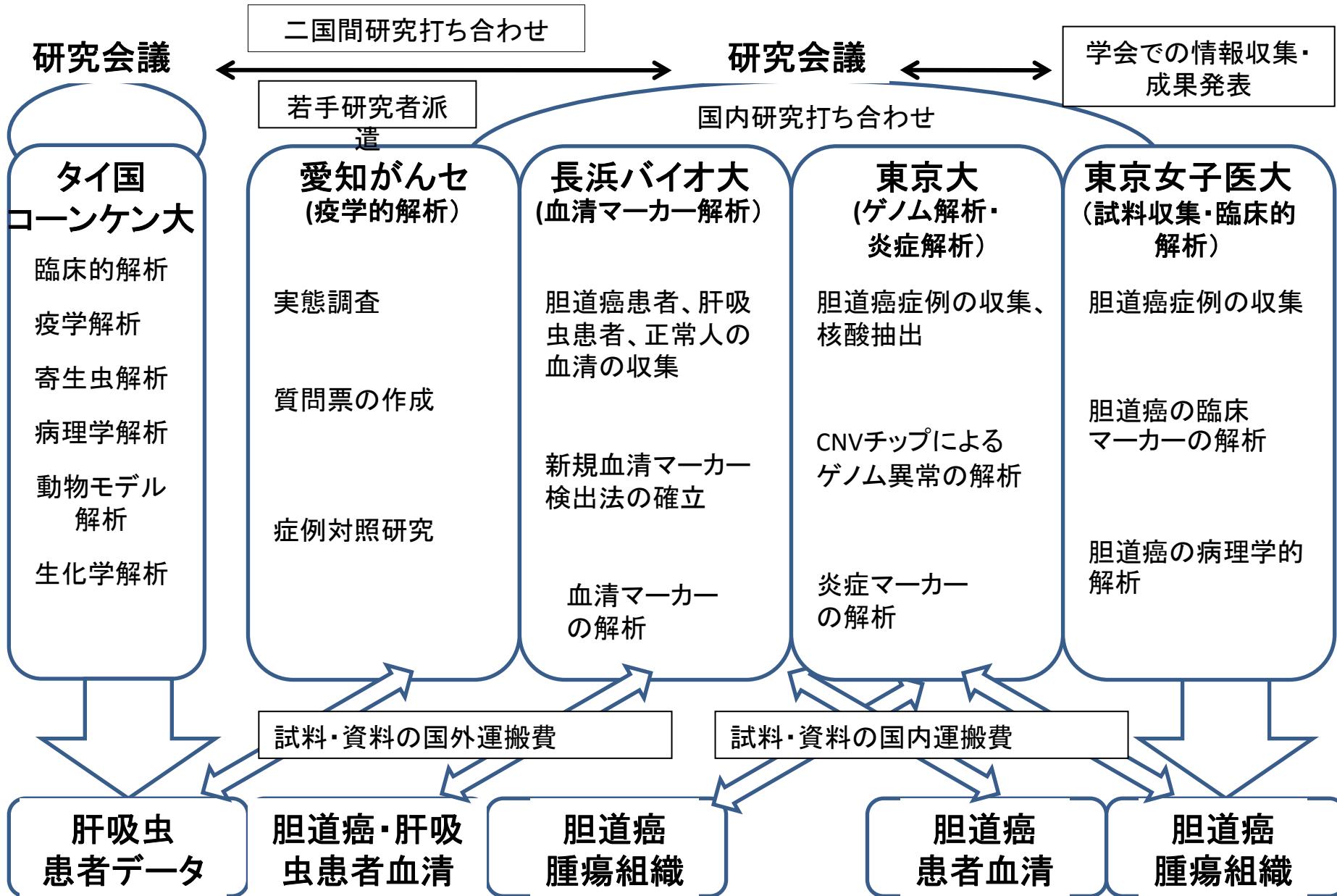
海外共同研究機関

- ・タイ国コーンケン大学 (代表者: Dr. Yongvanit、分担者: Dr. Sithithaworn, Dr. Wongkham, Dr. Pairojkul, Dr. Wongkham, Dr. Pinlaor)

活動内容:タイでの胆道癌試料収集と疫学、臨床病理学、寄生虫病学、並びに生化学的解析に関する研究活動

実施内容

(東京大学、東京女子医科大学、長浜バイオ大学、愛知県がんセンター)



ミッションステートメント

- 提案課題名 「 肝吸虫感染による胆道癌の制御を目指す研究 」
○研究代表者名 「 村上 善則 」
○代表機関名 「 東京大学 」
(実施予定期間： 平成22年度～平成24年度)

(1) 共同研究の概要

タイ国東北部では胆道癌の発生頻度が世界で最も高く、保健医療上重要な問題である。本邦研究者も関わった過去の疫学研究により肝吸虫感染・炎症との密接な関連が示され、吸虫感染者の胆道癌の予防、早期診断法の確立が急務、かつ可能な新局面に入った。日本では肝吸虫と無関係な胆道癌の頻度が高いことから、本研究では両国の胆道癌の疫学的、臨床的、分子遺伝学的比較、特に癌関連遺伝子、ゲノムコピー数多型や血清タンパク質の網羅的解析などの新手法を用いて胆道癌と罹患患者の特性を明らかにし、予防法の確立、診断マーカーの同定を目指す。胆道癌制御の新局面を拓く若い世代のネットワークを構築し、炎症による発癌という重要な課題の解決を通して、日本の癌対策一般にも貢献することが期待される。

(2) 実施期間終了時における具体的な目標

実施期間終了時の研究成果の目標は、肝吸虫感染者の中で胆道癌罹患に影響する疫学因子の候補を複数同定すること、またタイと日本の胆道癌の分子遺伝学的特徴を網羅的に明らかにし、胆道癌の早期診断に有用な血清マーカーの候補分子を複数同定することである。さらに研究の進捗状況に応じて、診断マーカーの実用化へ向けた検討に入ることを目指す。

一方、両国の協力関係構築については、責任研究者間、ならびに若手研究者間の信頼関係に基づく協力体制を構築すること、並びにタイ側から日本への若手研究者受け入れ（最低毎年1名以上）を積極的に推進することを研究期間内の目標とする。さらに本研究終了後も、代表研究機関である東京大学（医科学研究所）とコーンケン大学との共同研究を大学間の正式な共同研究へ発展させるために、医科研がすでにアジアの他施設と行っている如く、国際学術協定の締結に基づく共同研究拠点化を目指す。将来的には、両国政府による癌研究協力、交流の公的制度化を目指す。

(3) 実施期間終了後の取組

3年間の本初動研究の成果として同定される肝吸虫感染者の胆道癌発生に至る疫学因子と、胆道癌の診断マーカー候補分子を用いて、胆道癌克服へ向けた次世代の研究を発展させる。具体的には、疫学因子の修飾による胆道癌発生の抑制、診断マーカーの実用化とその評価、それを用いた胆道癌対策の改善を目指す研究を、強力な共同研究により継続する。継続研究においても東京大学医科学研究所とコーンケン大学肝吸虫・胆道癌研究センターが、その国際連携機能を活かして中心的役割を果たす。